



# 大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校  
学校だよりNo.11 3月号  
令和6年2月29日  
横浜市保土ヶ谷区  
川辺町65-1  
TEL 045-335-5896

## 『幼保小中連携から学ぶこと』

校長 梅田 佳美

今年の2月は例年になく寒暖差が激しい月となりました。梅の花もいつもより早く見ごろになっていたように感じます。令和5年度も最後の月を迎えることになりました。一年間保護者・地域の皆様には本校教育活動へのご理解・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

6年生卒業を祝う会、4年生成長を祝う会をはじめ各学年の授業参観が行われ、子どもたちの成果・成長を見ていただく機会がありました。子どもたちは一年のまとめ、次年度への準備、6年生にとっては新しいスタートに向けて日々過ごしています。

今年度本校は幼保小連携推進地区事業として一年間を通してスカイハイツ幼稚園、天王町保育園と連携して交流を深めてきました。双方の保育・教育の質の向上と円滑な接続ができることを目指しています。互いの職員が交流し顔の見える関係を築くために、保育参観・保育体験、職員研修を行いました。また、子ども同士の交流も1月～2月にかけて盛んに行われ全学年がかかわることができました。園児の皆さんは小学校生活への見通しをもつことで安心して入学できるきっかけとなってもらえたのではないかと思います。また、小学生は幼稚園・保育園の園児と交流することで学校生活をどのように伝えたら理解してもらえるか考え、園児が楽しめる活動やわかりやすい言葉を使うよう意識して計画しました。活動を通して相手意識と自分の役割に気づき成長するきっかけとなりました。

小学校は中学校とも連携しています。実際6年生が中学校へ行き授業や部活を見学します。職員同士も交流を通してスムーズな接続ができるように意識しています。6年生は中学校生活を理解し、どんな生活になるのか見通しがもてました。

教職員にとっても子どもたちの学びの連続性を意識することは大切です。担当する学年の児童がどういう学びをしてきて、これからどんな学びが必要なのかという視点で、目の前の子どもに今必要なことを指導していくことが大事になります。子どもが伸びる時期はそれぞれ違います。学校は学年という区切りがありますが、その一年で完結するものではありません。これまで積み重ねてきた経験を理解したうえで、今後どんな姿にしていくか見通しをもち次につなげていくことが重要です。家庭の教育も同じではないでしょうか。取り組んだ成果がすぐに結果で現れなくても積み重ねてきたものがいつか開花します。その日を信じてこれからも粘り強く、そして何年か先の目指す姿を意識して家庭と学校が連携して育てていきたいと思えます。今後ともよろしく願います。

来年度より峯小コミュニティーハウスが帷子小学校に移転することとなりました。令和6年7月より仮運用が始まり、令和7年に準備が整いましたら正式に運用が始まる予定となります。詳しい計画などは決まり次第お伝えしてまいります。